

東開町再開発促進協議意見交換会 用途変更は地域活性化



木材団地の再生に向けた基本方針が話し合われた意見交換会＝鹿児島市のジェイドガーデンパレス

東開町再開発促進協議会(米盛庄司代表幹事)は15日、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで鹿児島市の担当者らが出席して意見交換会を開き、木材団地の再生に向けた基本方針や整備計画づくりの骨組み等について話し合った。

同協議会は、木材産業の衰退から遊休地が目立っている両団地を市が用途見直しを進めていることから、市民や関係者の声を集積して今後の地区計画における具体的な街づくりや地区再生など将来的ビジョンを構築しようとする発足したもの。

会の冒頭、米盛代表幹事は「東開町の木材団地及び木材加工団地の有効活用の方策が求められて

いる中、地価の安い同地への事務所の開設等が地域活性化にもつながると思われ、そのためにも、行政に対して商業地域に準じた用途地域の配慮と計画をお願いしたい。また、大型店スーパーの出店も計画され、急速に開発が進むとも思われる。そのような背景を踏まえ、同地区の活性化に向けた方針をとりまとめ地域の

意見交換会では、東開町の地理的条件や産業道路などの交通の利便性を生かした活性化、地域に根差した地域計画などについて協議。同日は、鹿児島市の担当者が木材団地はマスタープランの中で現在の工業専用地域(用途地域)の見直し等も計画されていることから、地区計画を併用した見直しなども考えられると前置きし、「地区計画で用途変更しても地区計画で指定した建物等、規制ができる」と話した。

同市では地区計画で県庁周辺の鴨池地区、寺山地区、明ヶ窪、南団地などに適用していることから、木材団地と木材加工団地を含む地区を産業物流ゾーンとして地区計画を一体として見直ししていきたい考えを伝えた。

「工業地域や準工業地域などに用途変更する場合でも、既存施設の配慮は欠かせない」と述べた。

25、26日に鹿児島市で 建設経理事務士直前セミナー

橋本勉事務所

公認会計士橋本勉事務所セミナー事務局では、第21回建設経理事務士検定試験が間近に迫り、受験生が、自信をもって受験に挑めるように要点をつかみ実力をつけるための「受験直前対策セミナー」を毎年実施しているが、今年も鹿児島市で同セミナーを開く。

このセミナーは、合格を最優先し、試験直前最後のまとめとして本試験と同じレベルの総合問題A問、B問を2題列挙して分かりやすく解説するとともに合格を確実にするためのには出題される予想問題を設問

有村 公一さん

公事業推進部分譲促進課に入り、丸2年を迎えるところです。現在、ウッドタウン串木野の分譲業務を担当しております。同団地は霊峰「冠岳」を団地の北東に望み、緑に囲

まいた豊かな自然環境を有しています。また、近隣には総合運動公園が好んで、よく本を買います。愛車はトヨタのセリカですが、休日などは友達と県外までドライブに行ったりします。また、大学時代の友人たちとは毎月3、4回は会って、飲ん方を楽しんでいます。卒業後、こんなに頻繁に道串木野インターの整交流しているのはお前くらいだとよく言われますね。

(県住宅供給公社)

120・25・709
9 フリーFAX 01
20・39・7653

小牧建設の 県が連鎖倒産防止

再生活申請

県は、2月12日に小牧建設(小牧孝社長、本建設)が鹿児島市が行ったことに伴い、同社

120・25・709
9 フリーFAX 01
20・39・7653



担当者の説明に聴き入る児童ら
＝串木野市の冠岳花川で

冠岳地域づくり学習会 壮大な砂防ダムに感動

県と串木野市は16日、同市で冠岳の地域づくりと砂防学習会を開き、将来を担う小学生20人が現地見学や立体模型づくりを行い、地域の花川渓流再生砂防事業などの理解を深めた。

冒頭、冠岳小学校の多目的教室で授業が行われた。初めに串木野市の南竹一敏企画開発課長が「冠岳は古い歴史と伝説

があり、これらを未来へ伝えていくことが我々にはさまざまな施策を行っている」と冠岳歴史自然の里づくりを説明。また、大平修造冠岳地区副公民館長が昭和46年に発生した土石流災害を当時の写真を交えて語った。

次いで、県伊集院土木事務所の小脇博文技術主査が、花川渓流再生砂防事業の概要について、

「冠岳歴史・自然の里づくり」をテーマに花川流域の景観や親水性の向上などを図っていると解説。

続いて、花川に移動、着々と進む事業の様子を見学した。児童は自然石を切り出して造ったような砂防堰堤や護岸などダイナミックな土木構造物に感動した様子だった。

この後は、冠岳コミュニティセンターで記念手形作成や砂防再生事業の模型づくりも行い、児童たちにとって忘れられない思い出となった。

来月1日に設立説明会

消費者に住宅づくりの正確な情報を知ってもらい、欠陥住宅をつかまされたいための知識を広めよう」と、鹿児島市内の建築会社が「欠陥住宅と納得住宅づくりを勉強する会」を旗揚げする。主宰はローコスト住宅研究会(岩下勲代表、主宰・開設建設)で、3月1日午後1時から鹿児島市城山町のウインデビル2階、スペースKITEERAで設立説明会を開く。

勉強会では、住宅価格の

仕組みや専門用語の解説、見積書の読み方などを勉強するほか、実際に欠陥再現した「家」はまた建てな！大切な建築費をムダにするのはもうやめて下さい。あり、どのように手抜き工事が行われるか、また欠陥住宅ができてしまった場合、どのように再生するか等を消費者と一緒に検証する予定だ。勉強会は、いわば建築会社が自らの手の内を明かすようなもので、消費者の関心を集めそうだ。

岩下代表は「これからの住宅づくりは、いくら儲か

【訂正】 2月15日付け4面の大崎町建設業同志会の記事で、大崎町長名が誤っておりました。正しくは、東靖弘大崎町長です。関係者にお詫びして訂正いたします。